

第3節 館内奉仕

直接利用者に奉仕する係として、閲覧貸出、調査相談、児童奉仕と三つの窓口を設けてサービスを行うことは近代図書館の当然とすべき姿であるが、限られた人員でこれらの奉仕を円滑に行うためには、各職員の間々に課せられた仕事の量からしても容易ではない。不本意ではあるが、奥まった狭い児童室の資料を一般公開図書室に併置し、資料を増やし、親子ともども利用し得るようにした。もちろん単独の部屋を設け、専任の担当者を置くことが望ましいが、全体的な業務の流れから当分このような方法を取らざるを得ない実状である。これを補うという意味ではないが、現代の子供たちに対して欠けている日本古来の民話、童話の語り聞かせとして、月に一回ではあったが、研究実践家岡野宗光氏を招いて、土曜日の午後「民話を聞く会（ぼっこの会）」を開催したが年間を通して毎回70名ほどの児童が集まり、最終的には児童がお互いに話をして聞かせるほどになった。このようなことは職員としても実施できるようにすることが必要であり、今後十分職員自身の研修を行うべきものと考えられる。

一般利用については、特に著しい変化を見ることはなかったが、一般の利用はやはり新刊書に集中したこと、調査相談としては、資料の複写が年々増大してきており、今年も20～30%の上昇を示している。また館外個人貸出については、冊数増と期間延長が館界の実状となっており、そのレベルまで合わせるよう努めなければならない。

1 利用状況

利用者数として最も確かにつかみ得る「館外個人貸出登録者」については、学生・生徒数が450人減っているが、他は昨年より上回って、総体で約200人減っている。また登録手続きを月別に見ると、4月から9月までの上半期が当然のことながら、3,084人と70%に達し、下半期は1,265人と29%になっている。4月は更新するものが多く、半月の開館日で666人と最高を示し、8月は夏休みに入った児童、生徒の利用が多くなっている。成人については、年間を通して平均化している。

利用者数も昨年と変わりはない、年間271日の開館で、1日平均136人の直接の利用者となっているが、調査相談室における参考図書、新聞、雑誌等の利用者は数字に出ないの、座席利用の学生・生徒と合すると300人以上が利用している実状である。利用図書冊数についても同様のことが言える。結局、館外個人貸出、書庫から請求によって貸出した者の数字だけで、少なくともこの2倍の冊数が利用されている。

2 調査相談業務

年々著しい利用の伸びを見せてきており、図書館の利用が一般に理解されたことと喜ぶべきであるが、その内容も、郷土福島県に関する県外からの依頼等は、当館の資料だけでは応じえず、またコピーして郵送するなど職員の負担は一段と多くなってきている。また県内類似機関からの相互貸借も目立ってきている。

3 複写業務

年々増加の一途をたどり、遂に2,000件を越えるに至った。その資料は新聞、参考図書、郷土資料、一般図書が多く、調べものをする場合の利便性は、学生生徒に限らず、すべての利用者に行き渡り、図書館奉仕の完全な一分野となった。このために資料が同一人に占有されることなく、回転も早く、利用者にとっては、このうえないサービスを受けられるわけであるが、資料の痛みは避けることができず、特に大型本の参考図書等について新しい悩みが生じてきている。

4 展示会の開催

- 県内拓本展（故安藤十二氏作品）5月～6月
県内に存在する句碑等を拓本したのも十数点。
- 故堀江繁太郎氏遺作展 7月～8月
故人の絵日記で戦前の満州国、終戦後の日常生活を風物誌的に見ることができ、懐しいものであった。
- 農業関係図書資料展 9月～10月
主として当館所蔵の資料によって、わが国の農業を歴史的に眺めようとした。
- 美術図書資料展 11月～12月
美術の秋にちなみ、所蔵の豪華美術本を展示し、併せてPRを図った。
- 福島県の俳句集展 1月～2月
当館所蔵の俳句資料を展示し、その目録を作成して、利用への効果を高めた。

表1 利用者数（昭和49.4～50.3）

区分	人員	館内利用 (人)	館外 個人貸出 (人)	計 (人)	構成比 (%)	公 開 図書室の 利用者数	調 査 相談室の 利用者数
1 勤め人		1,931	5,782	7,713	20.9	5,606	2,107
2 自家営業		295	397	692	1.9	360	332
3 主婦		118	1,996	2,114	5.8	1,952	162
4 無職・その他		162	698	860	2.4	698	162
5 学生・生徒		2,544	11,667	14,211	38.6	12,045	2,166
6 児童		17	11,151	11,168	30.4	11,151	17
計		5,067	31,691	36,758	100.0	31,812	4,946

- (注) 1 開館日数 271日
2 1日平均利用者数 136人
3 自己の資料持ち込みによる座席利用者は含まない。

表2 利用図書冊数（昭和49.4～50.3）

区分 分類別	館内利用 (冊)	館外 個人貸出 (冊)	計 (冊)	構成比 (%)	公 開 図書室の 利用冊数	調 査 相談室の 利用冊数
0 総記	1,393	998	2,391	3.3	872	1,519
1 哲学宗教	296	1,312	1,608	2.2	1,316	292
2 歴史・地誌	2,100	2,380	4,480	6.2	2,381	2,099
3 社会科学	3,596	3,794	7,390	10.3	3,831	3,559